

県道内津勝川線周辺の古墳

標高約24～86mの段丘や丘陵に立地しています。北東から南西へ緩やかに傾斜する地形を形成しています。



1 八事神明社古墳

(八事町2-55)

築造時期：不明
墳形：円墳
直径：30m
出土遺物：円筒埴輪



墳丘の上には神明社が建てられています。平成9年に測量を行いました。葺石等は確認されいません。かつて土師質の円筒埴輪片が採集されたとの記録があります。

2 オセンゲ古墳

(大泉寺町字山畑1038)

築造時期：不明
墳形：円墳
直径：約42m
出土遺物：須恵器



平成4年に発掘調査を行い、墳丘は2段築成で、全体に葺石が施されていることが確認されました。墳丘規模や築造様式が近似する出川大塚古墳(滅失)が同一丘陵上の北東方向に所在していました。

3 オフジ古墳

(大泉寺町字山畑1010)

築造時期：不明
墳形：円墳
直径：18m
出土遺物：不明



平成14年に測量を行いました。段築や周溝、葺石は未確認であり、埴輪も出土していません。北城老人憩いの家に隣接して所在しています。

4 富士社古墳

(東神明町706-1)

築造時期：不明
墳形：円墳
直径：40m
出土遺物：不明



墳丘の上には富士社が建てられています。平成9年に測量を行いました。葺石や埴輪といった古墳に関連する遺物や周溝は確認されません。

◎ 出川大塚古墳 (滅失)

(不二ガ丘3-100-10)

築造時期：4世紀後半
墳形：円墳
直径：45m



出土遺物：三角縁神獸鏡(2面)・擬銘帯四神
四獣鏡・振文鏡・勾玉・管玉・石釧

明治33・35年の土取りの際に多くの遺物が発見されたとの記録があります。昭和37年に測量を行い、墳丘は2段築成で、葺石が施されていたことが確認されました。出土品は現在、東京国立博物館に保管されています。